

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム玉里
(ユニット名)	二階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市玉里団地2丁目5-1
記入者名 (管理者)	管理者 川崎 富美子
記入日	平成 20 年 9 月 5 日

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	老人会に参加できるようにしてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、入居者の介護と安全を守ることに全力を挙げていて、他の事を話し合う努力はしているが、いまだ充分とはいえない。	○	将来的に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去数回外部評価を受けたが、職員はその意義を理解し、指摘された事、注意された事はその都度改善している。	○	入居者の健康状態に応じて調理方法をとるようにしている。(極少キザミ食、小口キザミ食など)
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部からの委員の参加の都合がつかず、内部の者のみの会議になっている。	○	町内会長や家族代表委員が仕事をもっておられるので、話し合って調整していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は町内会に入会し、町内会のイベントの度に出席し要望を話し合う機会をもち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	保護の必要な方の入居者が多い為、福祉や権利について学び支援してゆきたい。	○	現在は入居者に成年後見人制度を必要とされる方はいらっしゃらないが、必要に応じ協力していきたい。又、職員も成年後見人制度をもっと深く学びたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を増やしたい。又、ホーム内での虐待は全く無い。	○	職員は自分の発した一言が高齢者虐待にならないよう、常に心がけて行動している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、重要事項説明書の内容を説明し、入居者は御家族と共に施設内の見学や希望の家族には体験入居等もすすめている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は努めて入居者と話す機会をつくり、不満、苦情を聞くようにしている。一部の入居者は自由に外出ができない不満をもっておられる。	○ 介護相談委員の方に出入りして頂き、入居者の相談にのっていただいている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や行事のときに入居者の生活や病気等に関して話をし、又、預かり金の管理も行い御家族に報告している。	○ イベントを開催した際の写真等や入居者の近況を定期的に伝えられるようにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の時や家族会面会時に御家族から意見や不満、苦情を聞くようにしている。入り口に御意見箱を設けている。	○ 御意見箱の利用はほとんどないが、積極的に利用していただくように工夫する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングは、入居者の状態の報告ばかりでなく、職員の意見や提案を聞く場でもある。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な欠勤者が出て、利用者のケアに不足が生じないよう、事前に職員の休みの希望を聞いて勤務表を作成する為、職員は確保されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考慮して、余り配置転換はしていないが、男性入居者への対応等ややむを得ない場合には入れ換えることもある。	○	認知症の方には馴染みの関係が大切だと考え、職員の異動は最小限にしている。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内により、それぞれの段階に応じた研修を受講する機会を確保している。	○	機会のある毎に研修の受講をすすめている。又、職員も今もっている自分の資格の向上を個々に努力している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は認知症と御家族の会の会員であり、会のイベントで他の施設を見学したり、勉強会に出席してサービスの質の向上を目指して努力している。	○	隣接地にグループホームも出来たので施設を見学したり、職員との交流をはかりながら優れたサービスがあったら参考にしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会、親睦会、映画鑑賞等不定期だが開催している。施設長は管理者の悩みを聞き、管理者は職員の悩みを聞くよう心がけている。	○	運営者は、職員のストレス軽減や職員同士の親睦をはかるために食事会、映画鑑賞等をおこなっている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ヘルパー職員は介護福祉士、介護福祉士はケアマネジャーを目指し頑張ってもらえるよう教本、その他参考資料を取り揃え、いつでも勉強できるよう配慮している。	○	職員が研修の受講を希望した場合には、その職員の受講が可能になるよう勤務の変更をしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	年金の事、帰宅願望のある入居者の悩みの解消に努力し、安心して過ごせるように努めている。	○	帰宅願望のある入居者の悩みを聞いたたり、落ち着き無い入居者には散歩に連れ出したりして、本人自身からよく聴く機会をつくっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族によって意見の食い違い等もあるので、時間をかけてゆっくりと求めておられる事、不安な事等聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。	○	入居者の希望で運ばれた家具を置き、不安を取り除き、入居者らしい生活ができるように努力している。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望される御家族に在宅サービス、通所サービスの利用が出来ないかどうか話をする。どうしても入居したいと言われる方には、本人と御家族の希望を第一に、どのようなサービスが必要かを考えている。	○	デイサービス、ショートステイ、訪問介護、通所サービス等介護保険で出来るサービスについて説明している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居等していただき、本人が馴染めるかどうか、納得し安心した上で入居を決めていただく事もある。	○	家族が希望しても本人が納得されない場合が多いので、2、3日お茶の時間等に来ていただいて職員とのなじみの関係を作るよう努力している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の娘や嫁となり、又、母や姉妹となりその時々で話を合わせて利用者を支えている。又、昔の風習や習わし、懐かしい料理等を教えていただいたりしている。	○	そば打ち、羊羹作り、キビナゴの刺身作り等入居者から学べるものは学ぶよう努力している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問も多く、食堂で一緒にお茶を飲んだりしながら、共に入居者を支える為の知恵を出し合ってゆく関係を保つよう努めている。	○	利用者の趣味に応じて一緒に楽しめるように職員も努力する。 (囲碁、歌、体操など)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族が本人の暮らしや介護にとって最も大切な人であることが、理解されるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、家族が気軽に訪問できるよう歓迎ムードで支援している。又、本人が行きたい所には御家族の協力をお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個性、他の入居者との相性等を見極めながら、良い関係が作られるよう必要に応じて声かけし、又、食事、お茶時の席順を考えている。	○	仲の良い入居者、仲の悪い入居者もおられるが、一人一人が孤立しないよう食堂の席順を時々替えている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要時お電話いただいてアドバイスしたりしている。	○	退所された御家族に利用者の様子を時々尋ねたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの伝えたい事をしっかり受けとめ、希望がかなえられるように支援する。	○	認知症の方の思いや希望はなかなか把握できないが、職員一同知恵を出し合い、その方の思いや希望を理解するよう努力している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりのサマリーや、本人、御家族の話を聴くことにより把握し、なるべく以前の暮らしに近づけるよう努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの習慣、好み、持てる力等の現状を総合的に把握するよう努めている。（出来る事は手伝ってもらおうよう努力している）		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人や御家族と良く話し合い、課題を見つけ、職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が介護計画の内容を知ることが出来るようにしている。	○	介護計画を基準として、その日利用者に必要なサービスは毎朝ミーティングで話し合っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じ随時見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録し、ケアプランの見直しや対応に生かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの機能を入居者のケアに配慮しつつ、地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応、家族、ボランティア等の見学、研修の受け入れ等）で柔軟な支援をしている。	○	研修やボランティアの受け入れを増やしてゆきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生、高校生の職場体験等を受け入れ、入居者の生活が広がるよう支援している。	○	ボランティアセンターへの働きかけをして、ボランティアの方々の協力をもらうようにしてゆきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム入居者は他のサービスを受けるのは自費になる為、余り他のサービス利用希望はない。	○	自費でも良いとお考えの御家族がおられたら近くのデイサービス等を考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	保護の入居者もある為、市の福祉の訪問等地域包括支援センターとの協働に努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある母体医院への受診には職員が付き添っている。他科受診については、御家族同伴で受診されるが主治医からの紹介状を持参してもらっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体医院の主治医より、認知症に関する知識を得ることが出来るし、進行を遅らせる薬等も使用している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護職である為、医療と介護の両面から利用者を支える体制が整っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	設置主体である内科のドクターに何でも相談でき、往診や他科受診時の紹介状の作成等お願いできて心強い。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期のあり方について、御家族と話し合いはしていて、職員も方針を共有している。	○	入居時に話し合いはしているが、完全な書類として作成していないので、今後の課題である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「できること・できないこと」を見極め、入院していただくことも選択肢の一つであるが、母体病院の支援もあり、本人や御家族が望まれば、ホームでの看取りを行っている。	○	ほとんどの御家族が最後の看取りを希望されている。退所者のほとんどはホームでの看取りを行った。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設への住み替えの場合、サマリーを作成し 情報を提供することで、違った環境でのダメージ を防ぐことに努力している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	本人にとっての誇りやプライバシーが見極めら れ、その人に合わせた言葉かけや対応をしてい て、お年寄りの利用者に対しては、敬語を使いマ ナーを守るようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり 、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	外出希望の方には、近場は職員と散歩がてらに出 掛けたり、時には車で外出等し落ち着いていただ いている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	入浴や散歩等、本人の希望を優先させるようにし ている。起床や就寝も本人の自由にさせて見守り をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理、美容院へカットに連れて行かれる御家族もあるが、ほとんどは職員が無料でカットしている。個性を大事にしたカットを心がけている。	○	その人の誕生日には一番好きな服でお化粧等してさしあげている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	硬いものや飲み込みにくい物については、見た目を大切にしながら、小さく切ったり、つぶしたり等の配慮をしている。又、職員は同じテーブルと一緒に食事をしている。	○	食事作りや後片付けの手伝い等もう少し一緒にしていただけるよう努めたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、酒、たばこを嗜む入居者はいない。おやつ、ジュース等は日常的に楽しめるよう支援している。	○	水分補給の目的もかねて、希望者にはお部屋で飲めるよう朝、夕2回ペットボトルにお茶を入れてさしあげている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつの使用を減らすよう努力しているが、重患者が多くなかなかすすめない状態である。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックの結果をもとに本人の希望に沿って入浴してもらうようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中でも一休みできるようリビングにソファを置いている。又、心身の状態に応じて自室で休んでもらうこともある。	○	夜間眠れない方には、職員が話し相手になり気分を落ち着かせるようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、 楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番 を見出せるよう支援している。(テレビ番組、週 刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小 動物の世話、新聞取り等)	○	カラオケ、紙芝居、ゲーム等を楽しんで いただけるようにしている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持っていただい ており、職員も一緒に管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの その日の希望にそって、戸外に出かけられるよ う支援している	積極的に近所に出かけて楽しめる雰囲気を作っ ている。 (買い物、散歩、近隣訪問、公園)	○	気候の良い時期は、屋根付き駐車場に テーブルや椅子を出して戸外でお茶を楽 しんでいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないと ころに、個別あるいは他の利用者や家族ととも に出かけられる機会をつくり、支援している	施設のイベントとして、水族館見物、黎明館への 花見や食事、健康の森公園、県民交流センター等 へ出かけて外出を楽しんでいる。	○	おはら祭り、夏祭り、外食等に出掛けて いる。クリスマスにはイルミネーション や観覧車を見物する予定がある。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者に代わり電話番号をまわし、相手が出られ たら入居者にお渡しし、職員は席を外すようにし ている。	○	送り物等される方の支援を行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ご せるよう工夫している	いつでも訪問でき、訪問時は居心地良く過ごせる ような雰囲気を作っていて、お菓子やお茶を一緒 に召し上がって頂いている。	○	入り口は朝8時から夜9時まで開放して いるので、いつでも来訪できるようにし ている。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを、すべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や御家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてすむような配慮をしている。	○ 利用者が一人で外出されたら分かるようにドアに鈴等をつけて見守っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りやすい場所において、入居者一人ひとりの位置と様子を把握している。 (入居者の側で記録をする等)	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は職員控え室に保管している。	○ 入居時危険物を持ち込まれた方には職員が預かり、危険を防止している。 (ハサミ、果物ナイフ、縫い針等)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成しており、職員全員で検討したり、すぐに対策を立てる等事故が再発しないようにしている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態対応策のマニュアルやビデオがあり、職員は随時勉強するよう義務づけている。	○ 実技の継続的な演習を行うようにしていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練の実施をやっている。	○	緊急連絡網を作成し、職員に渡してあり、すぐ駆けつけられるようにすると共に、地域の人々の協力を得られるように働きかけてゆきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	環境の変化によるリスク等について、御家族と話し合い、対策を御家族と共に考えている。	○	インフルエンザの予防注射を入居者、職員全員に受けさせる等感染症対策をしている。疥癬、肝炎、MRSA等への対応もやっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕2回のバイタルチェックを行い、入居者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるようすべての職員が注意している。	○ 変化があれば、施設長や主治医、管理者に連絡し指示をあおぐ。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者個々の薬の目的を周知しており、正しく服薬できるよう支援している。服薬の間違いや無効な薬を服用しないよう十分に気をつけている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	戸外への散歩による適度な運動や、おやつヨーグルト等工夫して自然排便に力を入れている。	○ 排便後、便チェックして体調に気を配っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。	○ 洗剤を使用し、義歯の清潔を保っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を作り、その日一人ひとりの摂取量をチェックして日誌につけ、大まかな摂取量を把握している。水分摂取量は特に気をつけている。	○ 微量栄養素の元であるプルーンやおやつ時のヨーグルト等を含め1日30品目、目指して献立を考えている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。（インフルエンザ等の予防注射）	○ 衣類、寝具の熱湯消毒を定期的に行っている。入居者、職員共に手洗いを頻繁に施行している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なものを購入し、調理用具等はすべて熱湯消毒する。スーパーが近いので毎日買い物に行ける。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関は1階にあるが、入りやすいようドアを開放し、花鉢等置いて、家庭的な空間にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの利用、テレビの音声の調整やテーブルに季節の花等を飾り、入居者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	○	散歩のついでに摘んできた草花等をテーブルに飾ったりして、季節を楽しんでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に、入居者が一人になったり、気の合った入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、窓を大きく開けて、空気の入れ換えをしている。冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切におこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	洗面所、物干しは高さがお年寄りに合わせて低く なっており、又、トイレには手すりが配置されて いる。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	鉢物への水掛をして頂いたり、洗濯物の取り込 み、たたみ分け等手伝っていただいている。混乱 や失敗もあるが、落ち込まれないよう声かけ等に 努めている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関先やベランダで植木の手入れや水やりをし たり、日向ぼっこ等が出来るような空間の工夫を している。又、ベランダで花木の鉢物を育ててい る入居者持込の花鉢もある。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)